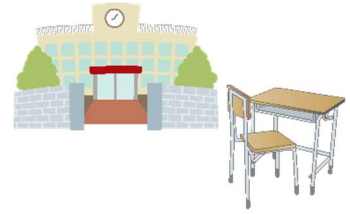


インターン生の つながる通信

発行 2018年4月
関西大学1回生
大下真穂

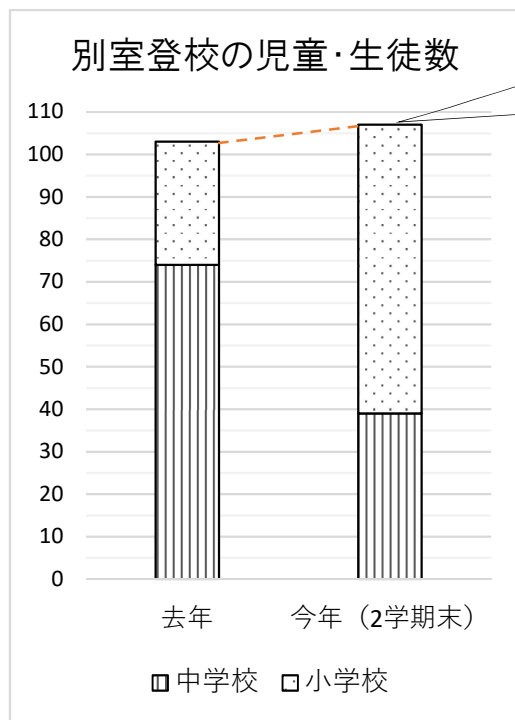


別室登校について政策提言

②別室登校とは…

登校しても何らかの理由で本来の教室に入れられないため、教室以外の場所(別室)に登校すること。

◇現状と問題



2学期末ですでに去年の人数を上回っている！！
毎年100人以上いる！！

別室登校の現実

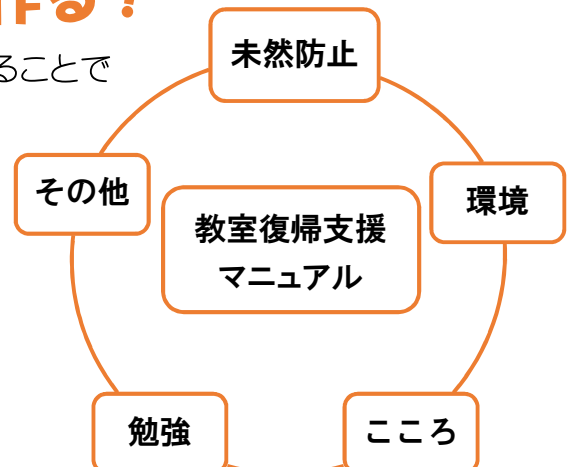
- ・ 別室登校の児童・生徒数は増加傾向
- ・ 勉強は主に自習
- ・ クラスの様子がわからない
- ・ 担任とのコミュニケーションが図りにくい
- ・ スクールカウンセラーとの面談室や別室の場所に決まりが無く、学校任せ
- ・ スクールカウンセラーが週1回、6時間しか学校に来ない

◇提案

「教室復帰支援マニュアル」を作る！

→ 5つのカテゴリーからなる教室復帰支援マニュアルを作ること
で3つのメリットがある。

- ① 児童・生徒が学校が安心できる居場所であると思える
- ② 早期教室復帰の実現が望める
- ③ 学校と保護者の連携が期待できる



未然防止

- **スクールカウンセラーの存在を周知**
→ 保健だよりなどに情報を載せる。
- **教室不適応が起こった児童・生徒の教室での居場所づくり**
→ 担任が相談に乗ったり、席替えを行ったりする。

環境

- **別室担当教員の配置**
→ 別室専門の教員を常駐させることで、別室登校の児童・生徒の様子を担任に伝えられる。
- **スクールカウンセラーとの面談室や別室は、人目を気にせず入れる場所に**
- **スクールカウンセラーが来る頻度を週2回、1日3時間に変更**
→ 現在の週1回、1日6時間からの変更で相談しやすくなる。
- **1人1つ机を用意し、通常の教室と同じように配置**
→ 教室復帰を意識できる。
- **スクールカウンセラーの予約を児童・生徒自らできるように予約カードの作成**
→ 担任を通さず予約できることで小さいことでも相談しやすい。

こころ

- **登校時に今日の目標（予定）を用紙に書き、下校時にふり返り**
→ 成長を客観的に認識でき、目標の達成が自信につながり、教室復帰への力になる。その用紙を担任と別室担当教員に提出し、コメントをもらうことで、児童・生徒とコミュニケーションを図れる。

勉強

- **担任が授業で用いたプリントや課題をその日のうちに手渡し**
→ 担任との直接的なコミュニケーションがとれる。その日のうちに渡すことで教室とのタイムラグを短くできる。
- **何曜日の何時間目にどの先生が別室に来るか把握できる表の作成**
→ 学習意欲がでる。
- **授業のライブ配信 or ビデオ録画**
→ 教室の様子がわかり、自習ではない方法で学べるため、学力低下を防げる可能性がある。

その他

- **別室担当教員の支援の重要性の理解**
→ 特に教職員が理解することで、別室担当教員と担任との連携を強化できる。
- **別室登校があることを早期に周知**
→ 不登校になるのを防ぐ。

教室復帰支援マニュアルを作ることで、別室登校の児童・生徒が一日でも早く教室に戻ってクラスメイトと一緒に学び、充実した学校生活を送ってほしいです。

◇感想 ～インターンシップの2か月間をふり返って～

この2か月間、インターンシップに参加していないとできないことを沢山できました。その中で、大学生活では接することの少ない世代の方々や、豊富な知識を持つ方々とお話をする機会が多くありました。これらの経験で、一つの物事でも色々な考え方や見方があるということを改めて知り、考え方の引き出しを増やせました。このインターンシップで学んだことを忘れず、これからは活かしていきたいです。